

文部科学省研究開発学校指定（2年次）

お茶の水女子大学附属小学校

第84回 教育実際指導研究会オンライン開催

（第2次・最終ご案内）

学 び を あ む

—新領域『てつがく創造活動』を中核とする教育課程の開発—

2021年11月 吉日

お茶の水女子大学附属小学校校長

NPO法人お茶の水児童教育研究会代表

新 名 謙 二

時下ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

来年2月に開催を予定しておりました「第84回 教育実際指導研究会」は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、授業公開を伴う集会形式の研究会を行うことは難しいと判断し、オンライン開催といたします。初めてのオンライン開催となった第83回の反省を生かし、授業実践をまとめた動画を事前に視聴していただいたうえで、研究会当日にご参会の皆様との話し合いの場を設けることを計画しております。

本校では、民主主義社会を担う市民の育成を目指し、一人ひとりが主体的に学ぶための学習のあり方を、個の尊重と協働の視点から探究し続けています。近年、技術革新による人工知能の飛躍的な進化やグローバル化の進展により、子どもたちのこれからを取り巻く環境は大きく変化することが予想されます。このような変化に対応する子を育てるには、自ら学びを構想し主体的に学ぶこと、他者と関わりながら協働的に学ぶことが不可欠であると考え、研究テーマを「学びをあむ」としました。

また、一昨年度から文部科学省研究開発学校指定を受け、自ら学びを構想し、主体的に学びを進める新領域「てつがく創造活動」を中核とする教育課程の開発に取り組むとともに、総合的な学習の時間のあり方を問い直しております。

制約の多い中でも教育研究に取り組んで参りました様子を多くの先生方にご覧いただき、さまざまなお立場からご意見・ご助言をいただきたく、ご多用のこととは存じますが、ご参会くださいますようお願い申し上げます。

記

○主 催 お茶の水女子大学附属小学校 / NPO法人お茶の水児童教育研究会

○後 援 お茶の水女子大学 学校教育研究部

○開催方法 事前申し込み（2月9日まで）

- ①オンデマンドによる授業場面の公開（2月11日～20日）
- ②オンラインによる研究発表（2月19日：当日）
- ③オンデマンドによる講演会（2月19日～27日）

○当日の日程 2022年 2月 19日（土） 10:00～16:30

| | |
|----------------|--------------------|
| 9:30 | 入室開始 |
| 10:00～10:10 | 全体提案 |
| 10:10～11:40 | 課題別部会 |
| 13:00～14:30 | 国語・理科・図画工作・家庭・体育部会 |
| 15:00～16:30 | 社会・算数・音楽・外国語・食育部会 |
| 16:30～2月27日（日） | オンデマンド配信による講演会（対談） |

当日の各部会では、オンライン会議システム webex を使用します。申込み完了後に接続の仕方などをお知らせします。なお、今後の感染拡大に伴い、ここに記載した部会や時程などについて変更があることも考えられます。変更した場合には情報を本校ホームページにアップしますので、ご確認くださいませようお願いします。

○全体提案 10:00~10:10 (入室9:30~)

本校の特色あるカリキュラムや独自の領域である「てつがく創造活動」について、研究テーマ「学びをあむ」という視点からその概要を提案します。

全体提案は、申し込まれた課題別部会の冒頭に各課題別部会の会場でご覧いただけます。課題別部会の Webex Meeting にお入りください。

○課題別部会 10:10~11:40 (入室9:30~)

本校独自の領域である「てつがく創造活動」の研究内容や実践、本校の低学年教育について、子どもたちの活動やそれを支える理論などを提案します。

2月10日(木)に、提案資料やオンデマンドでご覧いただける授業動画にアクセスできる URL を申し込まれたメールアドレスにお送りします。ご覧になった上で当日の協議会にご参加ください。

| 部会名 | 協議会の概要／部会テーマ | 共同研究者 (敬称略) |
|-------------------|--|--------------------------|
| てつがく創造活動 構想部会 | 「てつがく創造活動」は子どもの興味・関心から出発した学びである。子どもたちが主体的に、自由度高く取り組むことができる活動とはどのようなものか、その意味を問い直したい。またどのようなフレームで学びをつくらせているのかを提示したい。 | 東京大学 小玉重夫 上智大学 奈須正裕 |
| てつがく創造活動 評価部会 | 本部会は、子ども自身による評価の在り方に焦点を置き、自己評価の眼を養う他者の関わりを検討してきた。今年度は、子どもの学びを可視化する取り組みやてつがく対話の実践を通して、子どもの評価活動にかかわってきた教師の営みを振り返る。 | 本学 富士原紀絵 元日本女子大学 森田伸子 |
| 低学年部会 | 「幼小接続期」後の学びのつながりに注目し、実践記録をもとに対話することで、低学年教育におけるプロジェクトのありようについて考えたい。さらに、子どもたちの経験や活動の意味を、子どもの側から捉え直すことを試みる。 | 本学 浜口順子 元白梅学園大学 無藤隆 |
| てつがく創造活動 中学年部会 | “てつがくする”ことを通して、具体的体験と抽象的思考を往還させながら、自分の学びを見つめ、創っていくことを大切にしてきた。プロジェクト型の活動とてつがく対話を通して主体的に探究していく子どもの姿と、それに寄り添う教師の関わりについて考えていきたい。 | 慶應義塾大学 鹿毛雅治 埼玉大学 岩川直樹 |
| てつがく創造活動 高学年部会 | 高学年部会では、「てつがく創造活動」における「てつがく」の面を改めて意識してきた。子どもたちの活動は予期せぬことの連続である。子どもと共にある探究者として教師はそこにどう関わるべきか、実践を通して考えていきたい。 | 本学 武藤世良 甲南女子大学 村川雅弘 |

○国語・理科・図画工作・家庭・体育部会 13:00～14:30(入室12:40～)

各教科および食育について、子どもたちの学びの姿や活動、それらを支える理論などを提案します。参加部会から事前にオンデマンド配信された動画をご覧になった上で、当日の部会にご参加ください。

| 部会名 | テーマ 部会の概要／単元名・題材名 | 共同研究者・ コメンテーター（敬称略） |
|------|---|--------------------------|
| 国語 | 子どもの“今”からつくることばの学習 3年生のICTを活用した読書紹介や、5年生の説明文「弱いロボットだからできること」を事例としながら、ことばへの感度を高める学習について参会の皆様と考えたい。 | 本学 橋本陽介 東京大学 藤江康彦 |
| 理科 | 探究する空間(2年次) 「探究する空間」の形成のために「ヒト・モノ・コト」の役割が有機的に機能する手立てを、4年「ものの温度と体積」の実践を中心に、参会の皆様と共有したい。 | 本学 里浩彰 岩手大学 増田伸江 |
| 図画工作 | 「アートメタ認知」 造形的な学びの基盤となる「もの,こと,人,場」との対話における「感じる」というわかり方について,子どもの具体的な姿を対照させて参会者とともに考察を深めたい。 | 本学 刑部育子 東京家政学院大学 立川泰史 |
| 家庭 | 生活の探究からあみ直しへ はじめての調理実習を前に「食品ロス削減をめざすこども戦略会議」を開くことを試みる。身近な食べものに関わる課題を多面的にとらえ、実習につなげていきたい。 | 本学 小玉亮子 横浜国立大学 松葉口玲子 |
| 体育 | 対話するからだ 対話するからだに「なる」「育つ」とはどういうことか、子どもの姿から見つめたい。そして、子どもの育ちに関わる教師の意味を問い、共に考える時間としたい。 | 本学 水村真由美 宇都宮大学 石塚諭 |

○社会・算数・音楽・外国語・食育部会 15:00～16:30(入室14:40～)

| 部会名 | テーマ 部会の概要／単元名・題材名 | 共同研究者・ コメンテーター（敬称略） |
|-----|---|--------------------------|
| 社会 | 論争問題学習を通して当事者性を育成する 論争問題学習では当事者や当事者性がキー概念になる。「食糧自給率を上げるのか現状維持か」論争では、子どもはどのような意味で当事者になれるのか協議したい。 | 本学 岡田了祐 青山学院大学 月岡正明 |
| 算数 | 「自分事の算数」における数学的コミュニケーション 2年「時刻と時間」,3年「まるい形」,5年「速さ」の実践事例をもとに,学んでいる算数が「自分事となるような授業展開,そこでの数学的コミュニケーションについて考える。 | 本学 吉田裕亮 東京学芸大学 中村光一 |
| 音楽 | “音楽すること”からひろがる・深まる 自ら学習活動をつくっていく「ミュージックマップ」の時間には、たくさんの“音楽すること”があります。活動を通じた学習のひろがりや深まりを考えましょう。 | 本附属中学校 中山由美 淑徳大学 木下和彦 |
| 外国語 | 「世界」に生きる“わたし”を見つめる 「世界」を知り、自分との関わりを見つめながらことばを学ぶ外国語学習とはどのようなものだろうか。5年、6年の実践事例を中心に、参会の皆様と考えたい。 | 本学 櫻井勇介 聖徳大学 金瑠淑 |
| 食育 | 食をみつめる 自分をみつめる 子どもたちが様々な食の経験を重ねて食の視点を増やしていくこと,考えを聴きあうなかで子どもが自分の食をみつめ直すこと,この2つの視点を意識して実践を行った。 | 本学 赤松利恵 文部科学省 清久利和 |

○講演会 2月19日(土) 16:30 ~ 2月27日(日)

講演は対談形式で撮影したものを、オンデマンドにて配信いたします。配信期間内であれば、お好みの時間に視聴できます。

演題「主体性ってなんだろう ー意志と責任の視点からー」

國 分 功一郎 先生 (東京大学准教授)

講師紹介：専門は哲学・現代思想。主な著書に、『スピノザの方法』みすず書房、『暇と退屈の倫理学』朝日出版社、増補版：太田出版、『ドゥルーズの哲学原理』岩波現代全書、『中動態の世界ー意志と責任の考古学ー』医学書院(第16回小林秀雄賞受賞)、『来たるべき民主主義』幻冬舎新書、『<責任>の生成ー中動態と当事者研究ー』新曜社(熊谷晋一郎先生との共著)など多数。

熊 谷 晋一郎 先生 (東京大学准教授)

講師紹介：専門は当事者研究。主な著書に、『発達障害当事者研究ーゆっくりていねいにつながりたい』医学書院、『リハビリの夜』医学書院、『つながりの作法：同じでもなく違うでもなく』NHK出版(綾屋紗月先生との共著)、『当事者研究ー等身大の〈わたし〉の発見と回復』岩波書店、『お母さんの当事者研究：本心を聞く・語るレッスン』ジャパンマシニスト社、『<責任>の生成ー中動態と当事者研究ー』新曜社(國分功一郎先生との共著)など多数。

○参加費 2,000円 学生 1,000円 ※資料代(PDFファイルで共有します)

※申し込み手続きの中で、申し込みシステム使用料220円が別途必要になります。

○申 込

参加規約への同意と参加費の振り込みをもって申込み完了となります。よくご確認のうえ、お申し込みください。(※2月9日まで)

本研究会の全体の流れは、お申込み後(入金確認後)の返信メール内のGoogleドキュメントに記載しています。必ずURLをご確認ください。事前配信する「発表要項」・「児童教育」・「各部会からの事前発表動画」についても、同URL内に詳細を掲載しております。

一般受付は [こちら](#)



一般

学生受付は [こちら](#)



学生

●本会について寄せられている質問事項をまとめたページです。

[こちら](#)をご確認ください。



●本校教員が執筆している書籍については、お茶の水児童教育研究会ホームページの

[こちら](#)からお買い求めください。



●本研究会についてのお問い合わせはこちらまでお願いします。

TEL 03-5978-5875

E-mail info@npo-ocha-fs.org